

a 学校教育目標		夢に向かって かかわり合いながら 伸びていく子どもの育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 将来の夢と生きる力を育み ふるさとを愛する人材の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成 家庭・地域と連携した「協育」の推進 保護者や地域の信頼に応える学校づくり										
評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善策			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	l 評価			m コメント	n 改善策		
					h 達成値	h 達成値				適正	不明	不適正				
確かな学力	基礎基本の定着を図り、学力の向上を推進する	◎言語活動の充実 ○学習規律の徹底 ○家庭学習の充実	考えの足跡を残すノート指導	5つの視点で月1回ノート交流児童アンケート	75%	100%	80%	107%	A	・月中行事に交流日を明記したので、年8回のノート交流を行うことができた。 ・手本となるノートを掲示し5つの約束を徹底した。8割の児童がノート作りに対して肯定的評価を行っているが振り返りの内容に課題があった。	○ ○ ○ ○			・国語科関係に片寄っていないが、 ・目標の設定は中・長期的な計画で適切なものになるようにする。 ・手本を示したことはよかった。	・ノート交流日を月中予定に入れて定期的に行っていく。 ・振り返りの内容に深まりを持たせる手立て・指導を行う。(キーワードを使って・学習のポイント・学習方法等まとめる。) ・ノートに教師のコメントを入れる。	
			理由付けた発言(主語・結論・理由・つなぎ)	授業観察・授業評価表児童のアンケート	75%	74%	70%	93%	B	・言葉タイムで計画的に行なった。 ・児童アンケート理由付けができて75%つなぎ発言76%で意欲は高まったが子どもの意識・実態には差がある。	○ ○			・理由付けがきているので個々の児童の指導に期待する。	・発問のあり方(ゆさぶる・切り込むなど)を考える。 ・話型の指導を計画的に行い徹底する。	
			表現する場の設定(作品応募・発表朝会)	作品応募回数	2点以上2回	100%	100%	100%	A	・作品応募は2点以上できた。 ・発表朝会やお話朝会後の「書く」を交流することはできていない。	○ ○ ○	○			・自分の発想で作品を作成することはすばらしい事だと思う。 ・作品応募へ挑戦する。	・朝会の話の前後で「書く」ことを意識させておき、自分で話のポイントを整理してまとめていく力をつける。 ・作品応募へ挑戦する。
			はりのある声(めあてとまとめを言う場・音読)	国語の時間の毎時間の音読	80%	90%	75%	94%	B	・発表朝会では前半は学習のまとめ、後半は張りのある声をめざした暗唱を行った。声には個人差があり指導が十分できていない面があった。	○ ○ ○				・平素から張りのある声を出すことの意識付けが必要である。 ・手本となるような話し合いの仕方をみんなで話し合ったらよい。	・大きな声で暗唱する機会をきちんと設けて児童の意識を高める。(百人一首、俳句、詩等) ・朝の会に暗唱の時間を位置づけ継続して声に出して作品を読む。
			深め合う話し合い活動	授業観察・授業評価表児童のアンケート	75%	66%	70%	93%	B	・深め話し合う活動は不十分。	○ ○ ○				・家庭との連携はとても大切なことなので今後も丁寧な連携をお願いする。	・一問一答式の発問にならない、つなぎ発言ができるよう発問を工夫する。 ・話し合いを深めるための話型の提示と指導の徹底。 ・家庭学習の習慣が定着しにくい児童への指導の工夫・保護者との連携。 ・自学のよいものの紹介をするとともに内容の充実。 ・励みにつながる評価の工夫。
			家庭学習の手引きの提示と評価	家庭学習(自学含む)の割合	80%	90%	90%	113%	A	・家庭学習の手引きを配って指導した。 ・全体的には家庭学習や自主学習をすることができているが課題のある児童が固定化している。	○ ○ ○		○		・一人一人に合った個別の計画書をお願いする。	・個別指導の継続のための時間確保に努める。 ・学校体制としての指導計画を作成する。
			全校一斉テスト・小テストの継続(漢字・計算)	全校一斉テスト・小テストの結果	85点以上	33人	35.3人	71%	C	・漢字、計算、地図の検定テストに取り組んだ。 ・個別指導の時間確保に課題がある。 ・複数体制の個別指導には計画をたてないと難しい。	○ ○ ○ ○					
豊かな心の育成	全教育活動の中で、自己肯定感・自己有用感の育成	○読書量の増加 ◎美しい環境づくり	読書冊数の設定 意欲付けを図る全校的な取り組み	達成できた児童の割合	75%	34%	60.0%	80%	B	・読書貯金の方法は良くなかった。書く時間の確保が難しく児童に意欲を持たせることができず、学校全体としての取り組みにならなかった。 ・PTA講演会で講師の先生に親子で読み語りをしていただき、子どもの聞き入る様子などから、読書の楽しさや必要性を保護者に伝えることができた。 ・読書ビンゴには興味を示し冊数を増やすことができた。	○ ○ ○ ○			・感想文の提出などをさせてみてはどうか。 ・個々の興味が違うので興味のあるものを把握してすすめてみてはどうか。 ・児童への評価は表彰など形に表すよう工夫する。	・司書との連携をする(ブックトークなど) ・読書の目標冊数、ページ、読書量・内容などの把握方法は再考する。 ・たくさん意欲的に読書をしている児童への評価をきちんとする。 ・家読について保護者ときちんと連携する。	
			あと片付け・整理整頓・掃除の徹底	指導者の評価・生活振り返りアンケート・学校訪問者へのアンケート	80%	60%	80.0%	100%	A	・掃除場所が変わった時の掃除の取り掛かりは早くなってきた。(8割) ・掃除の分担を決めて担当の先生に了解をとるという意識は班長に芽生えてきた。 ・あとかたづけ・くつ(シューズ)そろえは、よくなってきているが習慣化できたとはいえない。	○ ○ ○ ○			・グループで掃除をするのであるから連帯責任も必要である。継続して指導して習慣づけにつなげてほしい。 ・当番制を用いて児童同士でのチェック体制を取ってはどうか。	・教師もいっしょに掃除をする。 ・一人一役で責任を持たせ、できていない場合は放課後やり直しをさせる。 ・特別教室の片付け(椅子・電気・窓・消しかす等)を指導する。	
			あいさつ・返事 あつまりの時間や時刻の厳守	指導者アンケート 生活振り返りアンケート 保護者アンケート 学校訪問者へのアンケート	80%	70%	90.0%	112%	A	・朝会等、全校が集まる場面では声の大きさを意識した声かけができた。(8割) ・全校そろって給食が食べれるように給食準備開始等早くなってきた。人数確認に戸惑う面がある。(8割)	○ ○ ○ ○			・挨拶・返事・時間厳守は人と接する上で重要なことなのでしっかりと指導をお願いする。 ・相手のよさを認めほめることはその人の自信にもつながるので重要。	・児童と保護者・指導者の間に評価の差があるので、あいさつのレベルアップを図る指導を行う。	
			よさを認める声かけと決まりを守る風土づくり(北方小「あ」の実践)	指導者自らが手本を示す 継続した指導	80%	70%	80.0%	100%	A	・授業準備のためそうじ時間に児童と一緒にそうじをしながら、掃除場所をすべて確認することができない時があった。	○ ○ ○	○			・教員が全ての掃除場所を点検することは時間的に考えても無理なので、できないときは児童のリーダーに確認を任せるとすると児童一人一人も意識する。	・決まりについて、職員・児童・保護者の共通理解を図り、中学校との連携のもと、決まりを守る風土をつくる。
			体育の時間の準備運動(系統的・計画的)	体力テストの結果(全国平均との比較)	80%	80%	90.0%	112%	A	・体育の時間の運動量が増えるような授業内容を考えて実施した。 ・器械体操系の種目では柔軟体操の時間を多めに設定することができたが、運動場で行う種目に関しては冬場は運動場の状態がよくないので座っての柔軟体操はできなかった。(7割)	○ ○ ○ ○			・体力テストの結果を公表し各職員のポジションを明確にして取組みをすすめる。 ・児童に企画を任せて自主性を育てる。	・体育の時間には、マラソン、サーキットトレーニングを継続して行う。 ・体力テストの結果を活かし、指導を改善していく。	
健やかな体の育成	基礎体力の育成	◎進んで体力づくりをする児童の育成	外遊びと異学年交流を仕組む	縦割り班遊びの回数・児童アンケート	80%	80%	90.0%	112%	A	・縦割り班での遊びは2学期に入って定期的に行えるようになり異学年集団で楽しく遊ぶことができた。(8割)	○ ○ ○ ○			・6年生の授業に中学校の先生を招く回数を増やす。	・児童会を中心に縦割りであそぶ機会を設定する。	
			年間計画に沿った活動の実践	年間計画の実施率と指導者評価	80%	60%	80.0%	100%	A	・年間計画に沿って確実に実施できた。食物を育てて食するという一連の学習を通して、食べることの楽しさや作る人の気持ちなどを感じることができた。	○ ○ ○ ○ ○			・達成度も良く頑張っている。今後も継続してほしい。	・学級園を使っての野菜作り、収穫したものを食べる、等の活動を年間計画に位置づける。	
			保護者や地域を巻き込む場を仕組む	試食会の実施、栄養士や食推さんの活用状況	3回	2回	5回	167%	A	・試食会2回、食推指導による調理、地域交流会等今までの行事を計画的にすすめていくことができた。(8割) ・試食会では給食の歴史や食べることの大切さについて栄養士さんや調理員さんの話を聞くことができた。	○ ○ ○ ○			・年間計画に位置づけて確実に実行していく。		
信頼される学校	協育の推進 学校評価の充実	◎便りの内容の充実 ◎地域を活かす学習 ○評価の方策進行管理	担当者の経営方針を伝える	担当者の自己評価と保護者アンケート	80%	70%	72.0%	90%	B	・やったことやお知らせだけでなく、取組みの目的や学習して子どもたちが育った面など通信等で知らせることができた。しかし、各部での取組みを報告する学期に1回の便りは教務部2回、生活部2回であった。	○ ○ ○	○		・緑の少年団の件も加味できないか。 ・発信したら受信することも大切に一方通行ではなく相互通信になるようにしていく。	・保護者の方に理解と協力を得るために、学校から積極的に発信していく。その中にねらいや願いを載せたりして学校に関心を持っていただけるようにしていく。	
			保護者や地域を活用した授業づくり(5回)	活用した回数と指導者の評価	80%	6回	11回	220%	A	・道徳では、地域の方や家族の方にご協力いただき、学習を深めることができた。 ・地域の方との交流等の後、子どもたちのお礼の手紙に対してお返事をくださる方も多く、子どもたちと心の通った交流となった。	○ ○ ○ ○			・家庭との連携は重要であり、アンケート結果を分析し今後の経営に生かしてほしい。 ・一部の目標を除き中間達成度より最終達成度が上昇しているので感謝します。	・今後も地域の方、保護者の方と連携をとり、人との係わり合いを大切にして学習を深める。 ・人材マップをつくり、計画に実施していくための資料作りを行う。	
			7回の方策進行管理・結果をふまえた実践	回数と自己評価	80%	4回	6回	86%	B	・スケジュール管理が十分でなく、実施が1回少なくなりました。	○ ○				・スケジュール管理表に学校評価の欄を作り、常に確認しながら計画通りに方策進行管理を適切に行っていく。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

[j:自己評価 評価]A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60 【学校関係者評価 評価】適正:自己評価は適正である。 不明:わからない。 不適正:自己評価は適正でない。